

所在地：愛媛県南宇和郡愛南町
御荘平城 3269 番地

認証：GLOBAL G. A. P.

応募区分：人材育成の部

面積：約 1 ha

構成員：53 名

栽培品目：河内晩柑

取組の紹介

【GAP に取り組んだきっかけ】

- 平成 30 年、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村への食材提供を目標とし、国際的な視野を持って柑橘栽培に取り組ませたいと考え、GLOBAL G. A. P. 認証を取得。柑橘では全国の高等学校で初の事例。

【GAP の継続に向けた取組】

- 実際に GAP 認証を取得している果樹専攻班だけではなく、農業科の全生徒に GAP の基本的な考え方・実践を身に付けてもらうため、全学年で行われる総合実習の時間で GAP の指導を行っている。また、GAP を人材育成のツールとしても活用し、生徒が主体的に活動できるような学習カリキュラムを組んでいる。
- 県内の GAP に取り組む農家が作成した GAP 認証取得支援ツールを導入し活用することで、認証取得時と比べて紙媒体の資料が 3 割減少した。

【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

- GAP の取組の一環で記録している業務日報の分析を行い、農薬散布の効率向上及び負担軽減を行うには剪定作業の効率化が重要であると考え、農業関係団体の協力のもと、低樹高栽培に向けた研究を実施。作業効率の向上と高品質化が同時にできるこの低樹栽培を広めるべく、各種講演会・取材への参加やコンテストへの応募を行いながら、地域の農家へ普及する取組を行っている。

【経営改善に向けた取組とその効果】

- 近年は非農家出身の生徒が大半を占めており、別分野へ進学・就職する生徒が多かったが、GAP を通じ多くの地域農業者等と関わることで農業へ関心をもち、農業分野への進学を志す生徒が増えてきている。(令和 3 年度 0 名、令和 4 年度 1 名、令和 5 年度 3 名予定)

【波及効果】

- 近隣の農業高校との年 2 回の GAP 学習会を開催し、県内で GAP を取得している農業者の講演や、同校生徒による GAP 実践の説明会を実施。地域内外に生徒自ら GAP の取組を発信及び指導等を行っており、現在は県内 4 校が GAP 認証を取得。
- 校内で収穫された GAP 認証農産物を活用した加工品開発にも取り組み、そのマーマレードを使用したお菓子を町内製菓店が商品化。その他にも、東京オリンピック選手村への食材提供や地域水産加工会社とのコラボ、愛南町と連携した県外での PR 活動、生搾りジュースの製造など、河内晩柑を全国、世界へ広げたいと様々な活動を行っている。



柑橘では高校生初の
GLOBAL G. A. P. 認証を取得



GLOBAL G. A. P. 更新審査の様子



コンテスト表彰式の様子



外部講師を招いた GAP 学習



マーマレードを使用した
地元製菓店でのお菓子販売